

指定管理者の管理運営に対する評価シート

所管課	(大洲総合運動公園)土木建築部 公園・生活排水課 (大分県立総合体育館)教育庁 体育保健課
評価対象期間	平成24年4月1日～平成25年3月31日

1 指定概要

施設概要	名称	大洲総合運動公園及び大分県立総合体育館	施設種別	レクリエーション・スポーツ
	所在地	大分市青葉町1番地		
	設置目的	<p>(大洲総合運動公園) 工業地帯と市街地を遮断する緩衝緑地帯として、また県民の健康と体力の維持・増進を図り公共の福祉の増進に資するため、各種スポーツ施設を備えた運動公園として設置。</p> <p>(大分県立総合体育館) 県民の体育及びスポーツの振興を図り、健康で文化的な生活の向上に寄与するため、総合体育施設を備えた体育館を設置。</p>		
指定管理者	名称	大分県公園協会・ファビルス共同事業体		
	代表者名	代表団体 財団法人大分県公園協会 理事長 畔津 義彦		
	所在地	大分市青葉町1番地		
指定管理業務の内容	<p>(大洲総合運動公園)</p> <ul style="list-style-type: none"> ① 公園施設の維持管理及び修繕に関する業務 ② 公園の利用の受付及び案内に関する業務 ③ 公園の利用の許可に関する業務 ④ 公園の利用促進に関する業務 <p>(大分県立総合体育館)</p> <ul style="list-style-type: none"> ① 体育施設の維持管理及び修繕に関する業務 ② 体育施設の利用の受付及び案内に関する業務 ③ 体育施設の利用の許可に関する業務 ④ 体育施設の利用の促進に関する業務 ⑤ 前各号に掲げるもののほか、教育委員会が特に必要と認める業務 			
料金制度	利用料金 使用料 ・ 該当なし			
指定期間	平成22年月4月1日～25年3月31日(3年間)			

2 評価結果

評価項目及び評価のポイント	
1	施設の設置目的の達成(有効性の向上)に関する取組み
	(1)施設の設置目的の達成
	①計画に則って施設の管理運営(指定管理業務)が適切に行われたか。また、施設を最大限活用して、施設の設置目的に沿った成果を得られているか(目標を達成できたか)。
	②施設の利用者の増加や利便性を高めるための取組みがなされ、その効果があったか。
	③複数の施設を一括して管理する場合、施設間の有機的な連携が図られ、その効果が得られているか。
	④施設の設置目的に応じた効果的な営業・広報活動がなされ、その効果があったか。

【所見】

(大洲総合運動公園)

- 大洲総合運動公園の利用者は、164,247人で前年度160,790人に対し102.2%となっている。この要因としては硬式野球場が24年5月まで拡張工事と電光表示板の改修工事により使用できなかったことが考えられる。
- また、プールの老朽化による使用休止も重なったが、「リニューアル新大分球場オープン前公開見学会」の実施とプロ野球ウエスタンリーグ公式戦、ジャパン女子ソフトボール1部リーグ公式戦の誘致、そして子供の日、体育の日、成人の日の施設の無料開放による自主事業(親子キャッチボール体験会、なでしこサッカー体験会、コスプレイベント等)の実施により利用者の増加の努力を行っている。

(大分県立総合体育館)

- 県立総合体育館の利用者は285,253人で前年度274,965人に対し103.7%となっている。主な要因は、夏休みと冬休みに子供を対象としたダンス、かけっこ、ボール投げ等の各教室を開催したこと、また、トレーニングルームでの、女性や年配者でも気軽に利用できるよう適切で効果的な指導やレスミルズプログラム(体幹トレーニング)を中心とした様々な自主事業(教室)の展開による効果が出てきているものと考えられる。
- さらに、教室やイベント等のチラシを作成し、周辺世帯へポスティングしていることも成果をあげていると思われる。

(大洲総合運動公園・大分県立総合体育館)

- 公園と体育館を合わせた利用者数は449,500人で目標数値の361,000人に対し達成率124.5%となっている。
- 管理運営業務を円滑に行うために現場の幹部で構成する『共同事業体連絡調整会議』を毎月1回開催し、年間利用者数の目標及び年間使用料収入目標額を常に念頭に置き、運営上の問題点や新規事業への対応など全般にわたり協議を行い、情報の共有化を図り、管理運営に努めている。

(2) 利用者の満足度

- ①利用者アンケート等の結果、施設利用者の満足が得られていると言えるか。
- ②利用者の意見を把握し、それらを反映させる取組みがなされたか。
- ③利用者からの苦情に対する対応が十分に行われたか。
- ④利用者への情報提供が十分になされたか。
- ⑤その他サービスの質を維持・向上するための具体的な取組みがなされ、その効果があったか。

【所見】

(大洲総合運動公園)

- 硬式野球場にアンケートボックスを常設して、より多くの利用者から意見を徴するようにしている。
- また、利用者の意見、苦情については、対応できるものは速やかに対応するとともに、調査結果をまとめホームページで公表している。

(大分県立総合体育館)

- 「お客様の声BOX」を設置し、お客様からの意見に対しては、翌日には掲示板に回答を掲示し、連絡先のあるものはその日のうちに電話で回答するようにしている。
- また、意見の内容・改善方法については毎日のスタッフ会議で共有するなど、アフターフォローが的確にできている。

2 効率性の向上等に関する取組み

(1) 経費の低減等

- ①施設の管理運営(指定管理業務)に関し、経費を効率的に低減するための十分な取組みがなされ、その効果があったか。
- ②清掃、警備、設備の保守点検等の業務について再委託が行われた場合、それらが適切な水準で行われ、経費が最小限となるよう工夫がなされたか。
- ③経費の効果的・効率的な執行がなされたか。

【所見】

(大洲総合運動公園・大分県立総合体育館)

- 電気の需給契約を22年11月に九州電力(株)から新日鐵エンジニアリング(株)に変更し、割引サービス等を利用して料金の縮減を図っている。
- 23年度には新大分球場の水洗トイレ50ヶ所で節水コマを取り付け、水道に係る経費縮減を図っている。
- また、下水道料金を支払う必要のないグラウンドや花壇等の散水口にメータを取り付け、下水道に係る経費縮減を図っている。
- さらに球場や体育館等の主要施設の手洗蛇口25ヶ所を自動化することにより、感染症対策に併せ節水対策を行い経費縮減を図っている。
- 電気関係の管理については、これまで公園と体育館に各1名配置し計2名であったものを併せて1名で対応している。また、機械関係と電気関係の管理は各1名で対応しているが、緊急時や休暇の際、互いに補完できるよう電気・機械両方の資格の所有者を配置している。
- 平成22年度からビル総合管理会社と共同事業体を構成することにより、それまで再委託していた清掃、警備、設備の保守点検業務を直営できるようにしている。

(2)収入の増加

①収入を増加するための具体的な取組みがなされ、その効果があったか。

【所見】

(大洲総合運動公園・大分県立総合体育館)

- 合計使用料収入(公園+体育館)は54,803千円で年間目標額50,000千円に対し達成率109.6%。

(大洲総合運動公園)

- 使用料収入は、13,926千円で前年度13,302千円に対し104.7%となっている。
これはプロ野球ウエスタンリーグ公式戦やジャパン女子ソフトボール1部リーグの開催に加え、利用者の少ない冬期にプロ野球選手の自主トレ・大学野球部の合宿利用等の誘致を図ったことが要因と考えられる。

(大分県立総合体育館)

- 使用料収入は40,877千円で、前年度39,579千円に対し103.3%となっている。
主な要因は各種自主事業の展開とトレーニングルームでの適切な指導による利用者の増加等によるものと考えられる。また、チラシを作成し継続して近隣エリアに配布を行っている効果が現れているものと思われる。

3 公の施設にふさわしい適正な管理運営に関する取組み

(1)施設の管理運営(指定管理業務)の実施状況

①施設の管理運営(指定管理業務)にあたる人員の配置が合理的であったか。

②職員の資質・能力向上を図る取組みがなされたか。

③地域や関係団体等との連携や協働が図られたか。

【所見】

(大洲総合運動公園・大分県立総合体育館)

- 公的団体と民間企業が連携・協力し、共同事業体連絡調整会議を設け、合理的な運営が行われている。
- 職員の資質・能力向上を図るため、国や県等外部主催の各種研修会や講習会に積極的に参加している。
- また、人権同和問題・施設の安全管理等をテーマに共同事業体の幹部による研修会を毎月開催し、それに基づきスタッフへの周知を図っている。
- 地元自治会・住民団体・各企業・スポーツ連盟・学校等に公園内の清掃に参加してもらっている。
- また、高齢者就労支援及び地元住民参加の一環としてグラウンド整備や清掃業務等を行う作業員についてはシルバー人材センターと連携をとり、地元住民を優先的に派遣してもらっている。

- 総合型地域スポーツクラブや各スポーツ団体・サークル等と連携・協力し、無料体験会やカルチャー教室等を開催するとともに、それらを支援するため、掲示板やホームページの『体育館だより』などで活動状況を掲示している。
- 中学校や大学等と連携をとり、「青少年育成・社会教育事業」として職場体験学習等の受入を行っている。
- 地元公民館や自治会にイベント等のポスターの掲示や回覧をお願いしている。
- 地元自治会に花壇づくりを協力していただいている。

(2) 平等利用、安全対策、危機管理体制など

- ① 関係法令(地方自治法、労働関係法令、通則条例、設置条例等)が遵守されているか。
- ② 施設の利用者の個人情報保護のための対策が適切に実施されているか。
- ③ 利用者が平等に利用できるよう配慮されていたか。
- ④ 施設の管理運営(指定管理業務)に係る収支の内容に不適切な点はないか。
- ⑤ 管理物件の修繕や日常の事故防止などの安全対策が適切に実施されていたか。
- ⑥ 防犯、防災対策等の危機管理体制が適切であったか。
- ⑦ 事故発生時や非常災害時の対応などが適切であったか。

【所見】

(大洲総合運動公園・大分県立総合体育館)

- 個人情報の保護対策としては、法や条例に基づき諸規定を整備している。
- 緊急連絡体制やマニュアルが整備されている。
- 毎日の巡回により、管理物件の異常の早期発見に努めるとともに、軽微な修繕については直ちに行っている。
- 独自の安全管理マニュアルに基づく定期点検や消防訓練、AED講習も行っている。
- 感染症対策の一環として、主要施設のトイレの手洗い蛇口等の自動化が進められていおり、また、照明スイッチの自動化にも着手している。

【総合評価】

〔所見〕

(大洲総合運動公園・大分県立総合体育館)

- 施設の管理は問題なく行われている。
- 各種自主事業を展開することにより利用者が増加している。
- また、地元自治会、住民団体、周辺企業、学校、NPO法人、ボランティアグループ等との連携が保たれている。

〔今後の対応〕

(大洲総合運動公園)

- 硬式野球場(ネーミングライツにより新大分球場が別大興産スタジアムと名称変更)が平成24年6月にリニューアルしたことから、プロ野球の誘致等、より一層の利用者増加の取り組みが期待される。

(大分県立総合体育館)

- 22年度に整備したトレーニングマシンについて、より幅広い年齢層の方に利用していただくよう、現在の取組(親切かつ適切で効果的な指導及び各種自主事業の展開等)を継続すること。

【指定管理者評価部会の意見】

- 各種教室やイベントなどの自主事業を積極的な広報を行い開催したほか、プロスポーツ等の誘致に努めた結果、目標指標である利用者数は124%と高い達成率となっていること、また、さまざまな経費低減に関する取組を行い、支出を抑えて黒字化していることは評価できる。
- プロスポーツ、学校関係、各種スポーツ団体との調整を図るほか、スポーツ専門員の配備やPDCA手法・予防保全の導入などソフト面を充実させ、利用者への迅速対応、事故トラブルの防止に努めていることは評価できる。
- 公園の利用者アンケートについては、調査項目や回収数増加の工夫を行い、利用者ニーズの把握や利用者意見の反映につなげてほしい。
- 津波などの災害時の誘導等に関する「安全管理マニュアル」は整備されているが、臨海地に位置している施設であるため、有事に備えた地元との連携、避難訓練も必要と思われる。